

令和8年度
授業シラバス
【2年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

令和 8 年度 教育課程表

北海道函館西高等学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	必履		必履		必履		必履		必履			履		必履		必履		必履		必履		選択必履		必履				必履		必履		LHR
1 年	1 現代の国語	2 言語文化	3 歴史総合	4 地理総合	5 数学Ⅰ	6 数学A	7 物理基礎	8 生物基礎	9 体育	10 保健	芸術Ⅰ (11音楽Ⅰ) (12書道Ⅰ) (13美術Ⅰ)		コミュニケーションⅠ		14 英語	15 情報Ⅰ	探究基礎		LHR													

	履	履	必履	履	履	必履	必履	必履	必履	履	選21	履	必履	LHR
2 年	1 論理 国語	2 古典探究	3 公 共	4 数学Ⅱ	5 数学B	6 化学基礎	7 家庭基礎	8 体育	9 保健	10 英語 コミュ ニケー ションⅡ	11日本史探究 12世界史探究 13地理探究 14物理 15生物 16美術Ⅱ 17生涯体育※ 18音楽Ⅱ※ 19書道Ⅱ※ ・グローバル探究	20 論理・表現Ⅰ	探究ナビⅠ	L H R

※ 2・3 年共修

		必履	選31	選32	選33	選34	選35	選36	必履	必履	選37	選38	必履	LHR
3 年	文系	1 論理 国語	2日本史探究 3世界史探究 4地理探究 5物理 6生物 7公民応用 8国語教養	9文学国語	16英語研究		28化学基礎研究 29地学基礎	36倫理 37政治経済	41 体 育	コミュニケーションⅢ 42英語	43生涯体育※ 44音楽Ⅱ※ 45書道Ⅱ※ 46数学研究A 47情報研究 48英語探究 49政治経済 50倫理応用 51実践化学 52アートデザイン	53小論文発展 54数学研究B 55英語研究 56数学発展 57国語に親しむ 58音楽Ⅲ 59書道Ⅲ 60色彩に親しむ	探究ナビⅡ	LHR
	17数学C				30日本史探究									
	10数学Ⅲ				31化学 32物理 33生物	22物理基礎研究 23生物基礎研究 24古典発展 25英語発展 26実践国語 27理科教養								
	理系			18数学C										
	公務員 看護 専門 就職等			11数学研究A	12数学研究B			34数学応用 35英語教養		38漢委に親しむ 39書に親しむ 40情報Ⅱ				
				13公民応用 14実践英語 15国語教養		19地歴応用 20実践数学 21数学教養								

※ 2・3 年共修

北海道函館西高等学校 古典探究 年間指導計画(3単位)					A 105 時間		B 時間		C 時間		時間		計 105 時間																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
					単 元 名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					4月	5月		6月		7月	8月	9月		10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
科目の目標					4月 「 事 実 と 創 作 」 の 境 界	5月 中 で 意 味 を 変 え る は 理 由 す る — 故 事 成 語 が 日	5月 長 「 通 」 の 美 意 識 は 正 し い の か — 兼 好 と 宣	6月 随 筆 に お け る 現 実 の 切 り 取 り 方 も 違 う の か	7月 同 じ 時 代 に お け る 現 実 の 切 り 取 り 方 も 違 う の か	8月 ル ー ル が 厳 し い ほ ど 自 由 に な れ る の か	8月 か — 源 氏 物 語 に 見 る 社 会 の 構 造 感 情 で 動 く の	9月 性 善 説 と 性 悪 説、 あ な た は ど ち ら で 社 会 を 設 計 す る か	9月 — 思 想 と 制 度 の 関 係	9月 ト リ ツ ク の 武 器 で あ る の か	10月 感 情 の 伝 え 方 は な ぜ 変 わ る の か	10月 — 三 代 集 に 見 る 「 定 型 化 」 と 「 個 性 」 の 相 克	11月 古 典 か ら 現 代 へ の 間 い を 立 て る — 自 分 の テ ィ マ で 非 連 続 テ キ ス ト を 読 む	11月 と 英 雄 の 条 件 は 時 代 に よ っ て 変 わ る の か	12月 物 語 へ の 没 頭 は 逃 避 か 自 己 形 成 か	12月 「 推 し 」 に 人 生 を 変 え ら れ た 最 古 の 記 録	1月 「 推 し 」 に 人 生 を 変 え ら れ た 最 古 の 記 録	2月 ひ な ぜ 負 け た 側 の 物 語 が 愛 さ れ る の か	2月 — 滅	3月 理 想 郷 を 描 く こ と は 現 実 批 判 か、 現 実 逃 避	3月 結 局、 歴 史 は 物 語 で し か な い の か	3月 — 大 鏡 の																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(1) 知識及び技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

2年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
公民		公共	2	学級単位		高橋英典・佐野秀一郎
教科書		詳述公共（実教出版）				
補助教材		ズームアップ公共資料（実教出版）				
目標	科目	1，現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，今後必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能） 2，現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。（思考・判断・表現） 3，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・人間は社会的な存在であること，伝統や文化を理解し，他者の価値観を尊重できることを理解している。 ・自分自身が，公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが，よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。		・社会に参画する自立した主体とは，孤立して生きるのではなく，地域社会などの様々な集団の一員として生き，他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し，表現している。		・よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。	
評価の方法	■評価の方法 小テスト，定期考査，準拠演習ノートなど 点数化してパーセントに直して「A」「B」「C」評価をおこなう。		■評価の方法 小テスト，定期考査，ワークシートの記述点検，発言等の行動観察など。準拠演習ノートなど 点数化してパーセントに直して「A」「B」「C」評価をおこなう。		■評価の方法 活動の様子を観察，レポート，口頭発表など 点数化してパーセントに直して「A」「B」「C」評価をおこなう。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4 と 5	16	第4章 民主国家における基本原理 1. 人権保障の発展と民主政治の成立 2. 国民主権と民主政治の発展	・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。 ・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。	◎	◎	○	○多数決の長所と短所について，協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。 ○議院内閣制と大統領制について，多面的に考察し，適切に表現している。 ○アメリカ独立宣言で示されている権利を読み取り，日本国憲法との関連について多面的に考察している。 ○多数決の長所と短所について，協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。 ○議院内閣制と大統領制について，多面的に考察し，適切に表現している。
6 と 8	12	第1章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義とわが国 3. 基本的人権の保障の安全	・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・憲法の最高法規性について理解する。 ・日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・人権に関する現実社会の課題について理解する。 ・新しい人権について理解する。（公共の福祉）	◎	◎	○	○議員立法と政府立法に関する情報を読み取り，その課題について多面的に考察している。 ○内閣総理大臣の権限について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○違憲審査会のあり方について，協働的に考察し適切に表現している。 ○裁判員制度について，多面的に考察し，適切に表現している。 ○都市と地方の格差について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○住民投票について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○地方議会の課題について，多面的に考察している。 ○地域社会の課題とその解決策について協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。
		前期期末考査					
9 と 11	22	第2章 日本の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所 3. 地方自治 4. 選挙と政党	・国会と内閣の構成について理解する。 ・司法権の独立と裁判について理解する。 ・裁判員制度や検察審査会について理解する。 ・官主導社会とその課題について理解する。 ・地方自治の本旨について理解し，戦後の地方自治の課題を理解する。	◎	◎	○	○議員立法と政府立法に関する情報を読み取り，その課題について多面的に考察している。 ○内閣総理大臣の権限について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○違憲審査会のあり方について，協働的に考察し適切に表現している。 ○裁判員制度について，多面的に考察し，適切に表現している。 ○都市と地方の格差について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○住民投票について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○地方議会の課題について，多面的に考察している。 ○地域社会の課題とその解決策について協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。
		後期中間考査					
12 と 3	20	5. 政治参加と世論 第5章 国際政治の動向と課題 1. 国際社会における政治と法 2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍備縮小 5. 異なる人種・民族との共存	・各選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・人生における青年期の意義を理解する。 ・青年期の特徴を理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・パーソナリティの理論や青年期の発達課題を理解する。	○	◎	◎	○国政への民意の反映について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○市民の政治参加について多面的に考察し，適切に表現している。 ○政治参加の意義について，多面的に考察している。 ○国政への民意の反映について，協働的に考察し，適切に表現している。 ○市民の政治参加について，多面的に考察し，適切に表現している。 ○政治参加の意義について，多面的に考察している。
		後期期末考査					
合計	70						

2 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
家庭	家庭基礎	2	学級単位		坂 上 真 子	
教科書		新図説家庭基礎（実教出版）				
補助教材		なし				
目 標	科 目	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得している		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造することができる。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。	
評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・実習における達成度 ・作品評価		・発表や発言の状況 ・グループ評価・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み		・授業中の取り組み状況 ・課題への取り組み状況 ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	自分らしい生き方と家族	オリエンテーション 生涯発達する人生 これからの人生をデザインする 青年期を生きる 現代の家族 家族・家庭をとりまく	○ ○ ○ ◎ ○	○ ○ ○	○ ◎ ○	○意思決定のプロセスを意識的に実行することで、長期的に展望のある選択ができることを理解することができる。 ○生涯発達の視点で青年期の課題を理解し、協力して家族の一員としての役割を果たし、家族を築くことの重要性和家庭・地域の生活の充実向上について考えることができる。 ○家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて考えることができる。 ○家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考えることができる。
6-8	12	子どもとかかわる 高齢者とかかわる 社会とかかわる	子どもの誕生 子どもの生活習慣と健康 親になることを考えよう 高齢社会に生きる 高齢者を知る 高齢者のサポートと介護の心	◎ ○ ○	○ ○ ◎	○ ◎ ○	○子どもの成長・発達を知り、子育ての意義について理解することができる。 ○子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解することができる。 ○高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。 ○共生社会の理念や社会保障制度について理解し、自分の生活や地域、社会の課題解決について考えることができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	衣生活をつくる 食生活をつくる	人と衣服の関わり 私たちの食生活と健康 調理の基本	◎ ○ ◎	○ ○ ○	○ ◎ ○	○被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。 ○健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生、食文化などの基礎的な知識と技術を習得することができる。
考査を実施せず							
12-3	20	住生活をつくる 消費行動を考える 経済的に自立する	ホームプロジェクトとスクールプロジェクト 人と住まいのかかわり ライフステージと住まいの計画 契約と主体的な消費行動 社会と家計の変化 人生設計とリスク管理	◎ ○	◎ ○ ○ ○	◎ ○ ◎ ○	○生活から見えてくる課題を探ることができ、それに対する具体的な解決方法を考え、改善活動をレポートにまとめ、発表することができる。 ○住居の機能、住居と地域社会とかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技能を習得することができる。 ○自立した消費者として生活を営むための、生活情報の活用や経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

2 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	2	2 クラス 3 展開		久保、対馬、斎藤	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材						
目 標	科 目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	体づくり運動 陸上競技 現代的なリズムのダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 競走、跳躍、投擲 仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標タイムを設定し、記録の向上を目指す。 ・ダンスの特性やいろいろなリズムと動きなどを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
6-9	24	選択Ⅰ	バドミントン サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につけ、実践する。
10-11	18	選択Ⅱ	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。
12-3	12	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 運動・スポーツの学び方	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができるよう。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。 ・何をどのように取り組めばよいのか、健康・安全をどのように確保するのかなどの、運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
合計	70						

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
保健体育		保健	1	学級単位	対馬	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材		現代高等保健体育ノート				
目 標	科 目	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、主体的に学習に取り組もうとする。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト		・ノート・課題の提出状況 ・授業観察 ・発表内容		・発言、発表態度 ・授業観察 ・協力体制	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	8	3	生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶	◎	◎	○	思春期における体と心の大きな変化について理解を深めるとともに、男女間の性意識の違いを知り、性的関心の高まりとともに誤った情報や性衝動のままに行動して妊娠や性感染症などの問題が起きないよう、性に関する適切な意志決定・行動選択ができるようにする。
6-9	10	3	生涯を通じる健康	6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 1 0 健康的な職業生活	◎	◎	○	人生の大きな出来事の1つである結婚とその後の結婚生活をよりよく過ごすためにはどうしたらよいか、また新しい命を育む上で重要となる妊娠・出産期を健康的に過ごすにはどのような事項に注意したらよいかを学び、生涯のパートナーとの相互理解をはかることの重要性を理解する。
10-11	10	4	健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康に関わる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	◎	◎	○	・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染についてそれぞれ理解を深め、地球規模で起こっている環境問題についてどのようにしてかかわっていくべきなのか、人々の健康面の問題と合わせて考えられるようにする。 ・私たちの生活と直結しているごみ処理・上下水道整備・し尿処理といった環境衛生活動と、食品の安全を守る食品衛生活動についてそのしくみと具体的な対策について学ぶ。
12-3	7	4	健康を支える環境づくり	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 1 0 さまざまな保健活動や社会的対策 1 1 健康に関する環境づくりと社会参加	◎	◎	○	・わが国における保健・医療制度について理解し、行政や医療機関で展開されているさまざまな保健・医療サービスを活用する方法を身につける。 ・医薬品の種類と正しい使い方について理解する。また、医薬品がもたらす作用を理解した上で、薬害等の問題が起きないような安全対策がとられていることを学ぶ。 ・私たちの健康づくりのために、国の枠を越えた世界規模の保健活動や対策がとられていることを知る。
合計		35						

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語コミュニケーションⅡ	4	2 クラス 3 展開	佐藤真弓・伊藤祐子・佐藤拓道	
教科書		MY WAY English Communication Ⅱ（三省堂）				
補助教材		LEAP（数研出版） 改訂版英語速読10分テストRapid Reading Level 2（美誠社） abceed（三省堂）				
目 標	科 目	社会との繋がり「多角的な視点を持ち、論理的な構成で伝える」 ・身近な社会的問題に関するニュースやブログ、報告文を読み、書き手の意図や要点を把握できる。 ・簡単なラジオ番組、トークショー、討論などを聞いて、必要な情報を整理し詳細を理解できる。 ・自国の文化や身近な社会の話題について、質問や確認をしながら理由や根拠を示してやりとりできる。 ・接続語句を適切に用いながら、自分の意見や考えを複数のパラグラフから成る論理的な文章で構成し、伝えることができる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 語彙・構成：身近な社会的問題（ニュースやブログ等）を理解し、表現するために必要な語彙や慣用句を習得する。 ・ 論理構成：自分の考えを論理的に整理して伝えるために、接続語句などを適切に用いてまとまりのある内容（複数パラグラフ）を構成する技能を身に付ける。 ・ 音声：ニュースやスピーチなどにおいて、必要な情報を整理して聞き取ったり、聞き手に分かりやすい流れで発表したりするための音声的な特徴を理解する。		・ 受容（読む・聞く）：身近な社会的問題に関する記事や放送から、必要な情報を整理して捉え、書き手や話者の意図・要点を把握する。 ・ 発信（話す・書く）：社会的な話題について、明確な理由や根拠を示しながら、自分の考えや気持ちを複数のパラグラフを用いて論理的に表現する。 ・ やりとり：自国の文化や身近な社会の話題について、質問や確認を交えながらやりとりを継続させ、互いの理解を深める。		・ 自己調整：教師、クラスメート、AIやICT等の支援を適切に活用し、自分の力を伸ばすために粘り強く努力を続ける。 ・ 他者理解・共生：場面や状況、相手の反応を踏まえた対話を通じて、自他を導び、多様な人と共生しようとする姿勢を持つ。 ・ 探究的姿勢：現代の諸課題を自己と関連付けて考え、新しい価値を見いだそうと積極的に外国語でのコミュニケーションを図ろうとする。	
評価の方法	評価の主眼： 社会的な話題を扱うための語彙・表現、および論理構成（パラグラフ・ライティングの型）が身に付いているか。 ・ 定期考査（語彙・文法、リスニング） ・ 単元テスト（語彙・文法、英作文（構成点）） ・ 単語テスト、音読テスト	評価の主眼： 情報を整理し、自分の考えを理由・根拠とともに論理的に伝えられているか。 ・ 定期考査（読解、エッセイライティング） ・ パフォーマンステスト（やりとり） ・ プレゼンテーション（発表） ・ 単元テスト（英作文（内容））	評価の主眼： 粘り強く推敲し、AI/ICT等の支援を適切に使いながら自らの力を伸ばそうとしているか。 ・ リフレクション・ログ（学習記録） ・ ポートフォリオ評価 ・ 協働への貢献度			

年間計画

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標	
4-5	32	Lesson 1 ～Lesson 10	【Learner-Stage】 教科書をベースに、語彙・文 法・背景知識を蓄える。 ①Vocabulary Check ②Listening & Q&A ③Reading ④Review ⑤Exercise ⑥まとめ(writingなど) ・Be a good interviewer ・with ALT ・探究活動とリンクしたプレゼ ンテーション	◎	○	◎	総括目標：身近な社会の話題を理解し、論理的な発信のための「型」と 「素材」を習得する。 【知識・技能】 ・教科書（Lesson 1～5）の語彙や文法を理解し、身近なニュースやプロ クの要点を正確に把握できる。 ・OREO構造（Opinion, Reason, Example, Opinion）の枠組みを理解し、 短い意見文を作成できる。 【思考・判断・表現】 ・“Be a good interviewer”の活動を通じ、相手の意見に対して簡単な相 槌や質問を行い、情報を引き出すことができる。 ・身近な社会問題について、ICT等で調べた事実（Fact）と自分の意見 （Opinion）を区別して整理できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・単語テストや abceed 等のツールを自律的に活用し、語彙力の向上に粘 り強く取り組むことができる。	
6-8	24							
前期期末考査								
9-11	44	Lesson 1 ～Lesson 5	【User-stage】 教科書のテーマを基に、蓄えた 知識を用い、他者とのやりとり を通して、自分の意見を発信す る。 ①本文Listening & Summery ②仲間とのやり取り ③Writing ・be a good interviewer ・Trio discussion ・with ALT ・探究活動とリンクしたプレゼ ンテーション	○	◎	◎	総括目標：多角的な視点から情報を再構築し、他者との対話を通じて解決 策や価値を創造する。 【知識・技能】 ・社会的な話題（Lesson 6～10）に関する長文を読み、接続語句を使い分 けながら、論理的な複数パラグラフの文章を構成できる。 ・“Trio Discussion”等で、相手の反応に即興で応じるための定型表現や 音声の特徴（イントネーション等）を活用できる。 【思考・判断・表現】 ・“Trio Discussion”において、自分と異なる視点（賛成・反対）を比 較・検討し、納得感のある自分の考えを再構築して発信できる。 ・探究活動とリンクしたプレゼンテーションを行い、明確な根拠に基づい た解決策を提示できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・AIやICTツールの支援を適切に受けながら、自分の発信内容を多角的な 視点で見直し、より適切な表現へ推敲（自己調整）できる。 ・対話を通じて他者を尊重し、多様な考えを持つクラスメートと共生しよ うとする姿勢を示す。	
考査を実施せず								
12-3	40	Lesson 6 ～Lesson 10						
後期期末考査								
合計	140							

2 年次		選択 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		日本史探究	2	選択授業	黒澤 剛	
教科書		詳説日本史（山川出版）				
補助教材		最新日本史図表（第一学習社） 要点整理ゼミナール（浜島書店）				
目 標	科 目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 歴史的事象に関わる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的事象を追求する姿勢を身につけているか。		我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか		歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか	
評価の方法	・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・定期考査の問題		・授業態度 ・グループワーク、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・定期考査の問題		・授業態度 ・ワークシート等の提出状況 ・定期考査の問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	12	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章 中世社会の成立 第6章 武士社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ嶋	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的影響について考察することができる。 ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる。 ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる。 ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ島と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	20	第6章 武士社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的な意義を理解し、それ以降戦乱が全国の各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		選択 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		世界史探究	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳説 世界史 （山川出版社）				
補助教材		ニューステージ世界史 （浜島書店）				
目 標	科 目	1 過去から現在までの変化の道筋を知ること、現在直面している世界の様相、社会の様相がどのようにしてできあがってきたのかを理解する。 2 歴史の中で生きた人間たちの生き方、考え方を検討し、自分の生き方、考え方を豊かにしていく。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようになる。		歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法		・小テスト ・定期考査 7 0 点 ・ワークシート ・スタディサブリ配信課題		・課題提出を点数化する ・ワークシート ・プレゼンテーション ・スタディサブリ配信課題		

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1部 諸地域世界の形成	・4 大文明～オリエント（エジプト・メソポタミア） インド 中国	◎特に重視する	○重視する	○重視する	・4 大文明の地理上の位置を理解できる。 ・4 大文明の特徴（統治体制・文字・暦・農耕・都市国家・他地域との関係性などを理解できる） ・文明の生み出した事象に違いが生じた理由について説明できる。 ・統治体制や国の興亡に関して、なぜそうなったのかを説明できる。
6-8	12	第2部 諸地域世界の交流	・イスラム世界 ・ヨーロッパ世界	◎	○	○	・4 大文明の地理上の位置を理解できる。 ・文明の接触における争いに関して理解する ・統治体制や国の興亡について、なぜそうなったかを説明できる。 ・4 大文明の特徴（統治体制・文字・暦・農耕・都市国家・他地域との関係性などを理解できる） ・文明の生み出した事象に違いが生じた理由について説明できる。 ・世界的な宗教について、成立の過程・発展を理解できる。 ・イスラム帝国の特徴について理解できる ・中世ヨーロッパ世界の成立・国々の興亡について理解できる。
前期期末考査							
9-11	22	第3部 一体化に向かう世界	・近世ヨーロッパと大航海時代 ・ルネサンス ・宗教改革	◎	○	○	・大航海時代について、地理上で理解できる。 ・大航海時代について、その影響について説明できる。 ・ルネサンスについて理解できる。 ・ルネサンスの影響について説明できる。 ・宗教改革について理解できる ・宗教改革について、その影響について説明できる。
後期中間考査							
12-3	20	第3部 一体化に向かう世界	・中央ユーラシア世界 ・朝鮮半島と日本	◎	○	○	・主権国家体制の成り立ちについて、国別に理解できる。 ・各国の対立関係について理解できる。 ・市民革命について理解できる。 ・主権国家体制と市民革命の関係性について理解できる。 ・中央ユーラシア世界における騎馬遊牧民の特徴について理解できる。 ・朝鮮半島と日本の関係性について理解できる。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		選択 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		地理探究	2	選択授業	船水 紀明	
教科書		地理探究（二宮書店）・新詳高等地図（帝国書院）				
補助教材						
目標	科目	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法	・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1編現代社会の系統地理的考察 第1章自然環境 第2章資源と産業	1 地形 2 気候と生態系 3 世界各地の自然と生活 4 日本の自然環境と防災 5 地球環境問題 1 農林水産業	◎	◎	○	・場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
6-8	12	第2章資源と産業 第3章人・モノ・金のつながり	2 資源・エネルギー 3 工業 4 第3次産業 1 交通・通信 2 貿易・観光	◎	◎	○	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
考査を実施せず							
9-11	22	第4章人口、村落・都市 第5章文化と国家	1 人口 2 村落・都市 1 生活文化と言語・宗教	○	◎	◎	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
考査を実施せず							
12-3	20	第5章文化と国家	2 国家とその領域	◎	◎	○	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
考査を実施せず							
合計	70						

2 年次		選択21				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		物理	2	選択授業	金澤恵	
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		エクセル物理総合版（実教出版）				
目標	科目	物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。 （２）観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 （３）物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能　＜習得＞		思考・判断・表現　＜活用＞		主体的に学習に取り組む態度　＜探究＞	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考查問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度	

年間計画

◎特に重視する　○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅱ章 波動	4 円運動と単振動・万有引力 1 正弦波 3 光	◎	◎	○	・ 単振動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。 ・ 正弦波の伝わり方と式での表し方について理解する。 ・ 光の伝わり方について理解する。 ・ 光のスペクトルや光の散乱について理解する。 ・ レンズと球面鏡によってできる像について，図と式を使って考えることができる。 ・ 光の回折と干渉について図と式を使って考えることができる。
6-8	12	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位	◎	◎	○	・ 気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・ 気体分子の圧力と気体分子の熱運動を理解する。 ・ 気体の内部エネルギーについて，熱力学の第 1 法則に関連付けて理解する。 ・ 気体の状態変化における熱，仕事及び内部エネルギーの関係を考えることができる。 ・ 静電気の種類と性質について理解する。 ・ クーロンの法則と電界について理解する。 ・ 電界と電位の関係を理解する。 ・ コンデンサーの性質を理解する。
9-11	22	第Ⅲ章 電気と磁気	2 電流 3 電流と磁場 4 電磁誘導と交流	◎	◎	○	・ オームの法則とジュール熱について理解する。 ・ 直流回路の性質を理解する。 ・ 半導体の性質とその利用について理解する。 ・ 磁力に関するクーロンの法則と，磁界と磁力線について理解する。 ・ 電流がつくる磁界の様子を理解する。 ・ 電流が磁界から受ける力について理解する。 ・ ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。 ・ 電磁誘導とその法則について理解する。 ・ ローレンツ力と誘導起電力，電磁誘導とエネルギーの保存について考えることができる。 ・ 自己誘導とコイルの性質について理解する。 ・ 交流について現象や法則を理解する。 ・ 電気振動と電磁波の性質について理解する。
12-3	20	第Ⅳ章 原子	1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○	・ 電子の電荷と質量について理解する。 ・ 光の粒子性について理解する。 ・ X線の性質について理解する。 ・ 粒子の波動性について理解する。 ・ 原子の構造及びスペクトルの関係について理解する。 ・ 原子核とその崩壊，放射線の関係を理解する。 ・ 原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ・ 素粒子の存在と宇宙について理解する。
		後期期末考查					

2 年次		選択 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		生物	2	選択授業		関崎 淳二
教科書		生物（数研出版）				
補助教材		リードLightノート生物（数研出版）				
目 標	科 目	・細胞を作っているタンパク質の構造や遺伝子、またそれによって引き起こされる光合成や呼吸といった生命現象の概念を把握する。 ・DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。			生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物			・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物 ・日常的な学習活動や実験観察への取組

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化	○	◎	◎	・生命の誕生や生物の進化について、遺伝子の構造と変異に基いて理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。
6-7	12		第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	○	◎	◎	・生物が進化の道筋をたどることによって系統に分類できることを理解する。人類の系統と進化についても理解する。
前期期末考査							
8-11	22	第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 第3章 代謝	第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成	◎	○	◎	・細胞を構成する物質について理解する。 ・タンパク質の構造を1次構造から4次構造まで理解する。 ・タンパク質が、酵素として機能する上での立体構造の重要性を理解する。 ・細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。 ・生体膜や細胞骨格については、その構造と構成タンパク質について理解する。 ・生体膜上で物質輸送や情報伝達に関わるタンパク質の、はたらきと仕組みについて理解する。 ・「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。
後期中間考査							
12-3	20	第3編 遺伝情報の発現と発生	第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	◎	○	◎	・DNAの構造と複製の仕組みを理解する。 ・遺伝情報の転写の仕組みを理解する。 ・遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。 ・遺伝子の転写調節の仕組みを理解する。 ・バイオテクノロジーの方法と社会に与える影響について理解する。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		選択 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
芸術		美術Ⅱ	2	選択授業		安田 祐子
教科書		高校生の美術 2（日本文教出版）				
補助教材		なし				
目標	科目	美術の創造的な活動を通じて、表現と鑑賞の能力を伸ばす。また制作において必要な技術を身につけ表現の幅を広げる。美術を愛好する心情を育てるとともに、生涯にわたり美術を学び親しむための力を身に付ける。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	表現の方法・違いを理解し、自身の好む新たな表現またその過程を考え、再現するために必要な技能を習得する。基本的な画材や道具の用い方を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。模倣や繰り返しを避け、これまでの学習をもとに自由で新たな表現方法に挑戦している。	
評価の方法	・練習課題 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・ 鑑賞レポート ・学習活動への参加状況や態度	

年間計画

				◎特に重視する		○重視する	
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・練習 ・平面構成	・オリエンテーション ・アクリル絵の具の練習課題 ・色彩と構成	○	◎	◎	○色彩について基本的な知識の理解を深める。 ○画材、用具についての特徴を確認し深める。 ○与えられた要素を効果的に用い、多くの構成パターンを検討する。 ○自由で大胆な構成を行う。
6-8	12	・平面構成 ・油絵	・着彩 ・鑑賞（名画から学ぶ） ・木炭による名画の模写	○	○	◎	○色彩と構成の理解を深め、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、美しく着色できる技能を身につける。 ○用具の正しい用い方を身につける。 ○作者やテーマ、描かれた背景について学び、原画を正確に模写する。
(前期期末考査)							
9-11	22	・油絵 ・銅板画	・油絵具による着彩 ・相互鑑賞 ・テーマと表現するための視覚的要素について	◎	◎	◎	○混色技法について理解を深め、思い通りの色を作り着彩する。 ○テーマを意識し、表現の仕方を探る。 ○対象を本物そっくりに描くだけではなく、感じ取ったことや考えたことなどを自分の表現方法を創意工夫して表すことができる。 ○テーマを表現するために検討した要素について、視覚的に表現することができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	・銅板画	・構成と鉛筆による下描き ・彫り ・刷り	○	◎	◎	○版画技法が社会の中でどのように生きてきたのかを知り、表現についての理解を深める。 ○用具を正しく用い、的確に線を彫れるようになる。 ○版や紙の丁寧な下準備がもたらす効果について学ぶ。 ○版画用インクの混色を学び、色による作品の印象の違いを鑑賞する。
(後期期末考査)							

2.3年次		選択 2 1 + 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
保健体育		生涯体育	2		北辻、久保	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材						
目標	科目	それぞれの体力、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、生涯にわたってスポーツに親しむことができる態度を育成する。既存のニューススポーツから、さらに発展させたオリジナルのニューススポーツを開発しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動技術の仕組み、体力の高め方、スポーツの文化について理解しているか。自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価の方法	授業への取り組み（観察） ルールの遵守 基本的な個人技能		授業への取り組み（観察） 自己の課題設定 練習方法の工夫		授業への取り組み（観察） 練習方法の計画性 周囲への配慮	

年間計画

		◎特に重視する ○重視する					
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	12	オリエンテーション 体づくり運動	体ほぐし運動 体力を高める運動	○	◎	◎	・ライフステージに応じた体力トレーニングの方法を理解して実践している。 ・グループで協力しながら、仲間づくりやマナーを学ぶことができる。 ・仲間と協力して課題を解決することができる。
6-9	24	レクリエーション スポーツⅠ	キックベース タグラグビー/タッチフット テニス/パークゴルフ アルティメット (雨天時バレー、卓球)	○	◎	◎	・運動技能の構造や運動の学び方について理解することができる。 ・屋外における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
10-11	18	レクリエーション スポーツⅡ	テニボン インディアカ ドッチビー ミニバレー	○	◎	◎	・屋内における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
12-3	16	レクリエーション スポーツⅢ 家庭学習	ニューススポーツ	○	◎	◎	・日本で行われているニューススポーツや、世界各国で行われているニューススポーツを体験するとともに、オリジナルのニューススポーツを開発しようとする態度を身に付けることができる。
合計	70						

2 年次		選択 3 7 ・ 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		音楽Ⅱ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		音楽Ⅱ Tutti+				
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのようにに表現するかについて理解する。		イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法	・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験		・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験・鑑賞		・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞	

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・歌唱	・オリエンテーション ・発声練習 ・歌唱（コンコーネ） ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・発声の基本技能を身にけ積極的に歌唱活動を行う。 ・音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダ（2重奏） ・器楽合奏 ・声の世界 ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・他者との調和を意識したり、合奏の特徴を生かしながら、イメージを持って表現を創意工夫する。
前期期末考査							
9-11	22	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（合奏） ・ヴォイスアンサンブル ・舞台芸術の世界（歌唱） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞 ・創作 ・発表	・ギター（弾き語り） ・舞台芸術の世界 ・ドラム ・発表	○	○	◎	・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。 ・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
後期期末考査							
合計	70						

		選択３ ７ ・ ２ １				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
		書道Ⅱ	2	選択授業	天満谷 貴之	
教科書		教育図書 書道Ⅱ				
補助教材		なし				
目標	科目	(１) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (２) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (３) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。 ・書の伝統や文化に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。		・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を深く捉えることができる。		・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書の伝統と文化を踏まえて、心豊かな生活や社会を創造できる態度を養うことができる。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書１ 篆刻	古典（歴史の変遷）を探る 泰山刻石と金文 姓名印を刻そう	◎ ◎	◎	○	○書道Ⅱで目指す内容を整理し、１年間の流れ・評価等について確認 <知識・技能> ○篆書の歴史を理解し、日常との関連を図りながら篆書・篆刻の技能について理解し、学ぶことができる。 ○主体的にグループワーク、ICTを効果的に活用し、知識・技能習得を目指す。 <主体的に学習に取り組む態度> ○文字の成立を正しく理解し、書の伝統と文化について考察し、日常生活と関連していることを探究し理解を深める。
6-8	12	漢字の書２	行書と楷書の違いと美 日本の書を学ぶ	◎	○	◎	<知識・技能> ○楷書・行書の用筆法を正しく理解し、古典の特徴を活かしながら臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシート・ICT機器を効果的に活用させ、自国の歴史的背景と関連させながら、文字文化の価値について、思考し表現することができる。
前期期末考査							
9-11	22	漢字仮名交じりの書	詩人の言葉を書く 生活の中に生きる書 手紙を書く	◎	○ ◎	○	<知識・技能> ○俳句・短歌等を題材に、自己の表現意図に基づいて表現することができる。 ○日常生活場面を想定し、文字が生きる場所・生かされる場所などを考察し、感性を働かせながら表現活動することができる。 <思考・判断・表現> ○日本の文化を様々な角度から探究し、日本の文字文化を支える「手紙」のよさや、価値を理解し感受することができる。
後期中間考査							
12-3	20	仮名の書	古筆を学ぶ	◎	◎		<知識・技能> ○荒野切れ・和漢朗詠集を通して、書き手を想像しながら細部まで緻密に臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○習得した用筆法を活用し、原寸サイズでの境地を迫体験し、仮名のよさや価値について味わうことができる。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		論理・表現 I	2	学級単位	佐藤真弓・伊藤祐子・佐藤拓道・松尾啓史	
教科書		CROWN Logic and Expression I New Edition (三省堂)				
補助教材		EARTHRISE アースライズ総合英語 Logical English Reading Level ①				
目標	科目	・ 日常的・社会的な話題について、情報や考えを整理し、理由や根拠を添えて英語で論理的に伝える力を養う。 1 やり取り、スピーチ、プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション、ディベートを通して、目的・場面・聞き手に応じた表現ができるようにする。 2 聞いたり読んだりしたことを活用し、比較・具体例・因果関係を用いて自分の考えを組み立て、発信できるようにする。 3 互いの意見を尊重し、より適切な表現を選びながら主体的に伝え合おうとする態度を育てる。 ・ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを 1 伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 2 論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。 3 論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにする。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・ 英語で話したり書いたりする際の論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝えるための表現について理解を深めている。 ・ 話すことや書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用することができる。 ・ やり取り、発表、文章作成において、既習の語彙・文法・表現を適切に活用している。		・ スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、文章作成などを通して、目的や場面に応じて、日常的・社会的な話題について、英語で情報や考えを理解し、適切に表現し伝えようとする。 ・ 目的や場面、聞き手を意識し、複数の情報や考えから適切な内容を選択して、筋道立てて伝えようとする。 ・ 理由、具体例、比較、反論などを用いて、自分の考えを分かりやすく表現する。		・ スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、文章作成などを通して、目的や場面に応じて、日常的・社会的な話題について、英語で情報や考えを理解し、適切に表現し伝えようとしている。 ・ 目的や場面、聞き手を意識し、複数の情報や考えから適切な内容を選択して、筋道立てて伝えようとしている。 ・ 理由、具体例、比較、反論などを用いて、自分の考えを分かりやすく表現しようとしている。	
評価の方法	・ 単元テスト ・ パフォーマンステスト		・ 単元テスト ・ パフォーマンステスト		・ ポートフォリオ ・ パフォーマンステスト ・ 振り返りシート ・ 授業での活動の取組 ・ 提出課題	

年間計画

年間計画			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	GET READY! Lesson 1 Living Your Own Way Lesson 2 Breakfast: To Have or Not to Have	《活動》 ・自己紹介、将来の夢についてのやり取り ・朝食と生活習慣についての意見交換 ・ミニスピーチ、ミニプレゼンテーション 《言語材料》 ・基本 5 文型、品詞、句と節 ・時制、助動詞	○	○	◎
6-8	12	Lesson 3 Cool Japan Lesson 4 Saving Our Planet	《活動》 ・日本の魅力を伝えるSNS原稿の作成 ・環境問題と解決策についての情報整理と討論 ・資料を根拠にした意見発表 《言語材料》 ・受動態、不定詞	○	◎	○
考查を実施せず						・英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・自分自身や生活習慣について、理由を 2 つ程度添えて話したり書いたりできる。 ・将来の夢や理想の食事メニューについて、導入→理由→結論の流れでスピーチやプレゼンテーションができる。 ・相手の発表を聞いて、簡単な質問や感想を英語で伝えることができる。
9-11	22	Lesson 5 Another Life I Might Have Had Lesson 6 Living in the Future Project 1 My Hobby:	《活動》 ・読書や古典学習についての意見交換 ・科学技術や発明を題材にしたプレゼンテーション ・自分の趣味を紹介するスピーチ 《言語材料》 ・動名詞・分詞、比較	○	○	◎
考查を実施せず						・英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・読書や科学技術に関する話題について、具体例や比較表現を用いながら自分の意見を述べることができる。 ・おすすめの本、趣味、史上最大の発明品などについて、聞き手を意識して発表できる。 ・発表後の質疑応答で、質問に対して理由や例を加えて答えることができる。
12-3	20	Lesson 7 Discovering Japan and the World Lesson 8 Volunteer Work Projects 2-5	《活動》 ・外国人に薦めたい場所を紹介する記事作成 ・ボランティアの是非を巡るディベート ・プレゼン、ライティング、ディスカッションの総合課題 《言語材料》 ・関係詞、仮定法	○	◎	○
考查を実施せず						・英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・観光やボランティアなど社会的な話題について、自分の立場を明確にし、根拠や具体例、反論を挙げながら述べるができる。 ・紹介文や意見文を書き、目的に応じて書く内容や表現を使い分けることができる。 ・ディベートやディスカッションで、相手の意見を受け止めた上で賛成・反対の立場を述べ、やり取りを続けることができる。
合計	70					